

# 記憶を記録にプロジェクト 2021 年報告

2022年4月1日 平林

プロジェクトメンバー（敬称略） プロジェクトリーダー 平林秀樹 1983 年

藤井拓也 1998 年(理事) 宮川貴幸 2000 年 亀田健一 2006 年 堀田雄也 2008 年 平井優季 2013 年

## 【ミッション】

- ・競走部活動の歴史を記録として後世に繋げる
- ・過去の貴重な資料の散逸を防ぐための仕組みを作る。

## 【目指す姿】

\*創部 104 年を迎え(徒歩部から 129 年)、世代の交替も進み、競走部活動の貴重な歴史が失われていく現状にある。

だからこそ、まずは、1974年以前卒(70歳以上)の方々を対象に

- 大先輩の記憶を記録化する仕組みをつくり、競走部の歴史が継承されていくようにする

- ①言語化側面 大先輩方の記憶を文章化して残していく、共有していく仕組みづくり
- ②モノの収集側面 大先輩が所有される、数々の「思い出の品(メダル、プログラム、海外遠征の記念品 など)」の保存・保管について、OB 会として、どのような関りが出来るのかについて、その可否も含め検討・決定する。

### 1)2021 年の活動目標 ①「記憶の言語化」を中心に活動

- i)年内に、大先輩方にこうした取り組みについて、実感を持ってもらう(告知)
- ii)「言語化」情報の収集のトライアルを行い、数名の大先輩の「記憶」を「言語化」する

### 2)2022 年の活動目標

- ①「記憶の言語化の仕組み化」
  - ・「記憶の言語化」について、安定的な活動につなげていく → 「記憶の言語化」の量を増やす
  - ・「言語化」された記録を、多くの OBOG の方々に提供する仕組みづくり
- ②「モノの収集についての仕組み化」
  - ・大先輩が所有されている数々の「思い出の品」をどのように保管するか、現物を保管することをあきらめる場合は写真などで残すなどルールを定め、仕組み化する

## 【取り組みについて】 6 月から 12 月まで 11 回のプロジェクトミーティングを実施

### 1) 2021 年の活動目標に向けた取り組み

- i)大先輩方への告知(記憶を記録にプロジェクト実施について)
  - ・高齢の大先輩方にお話を伺うために、70 才以上(246 名)の方々にハガキによる告知を実施
    - 2021 年 9 月中旬に発送
    - \*数名の大先輩方から、ご連絡、合宿所関連の資料をいただきました。ありがとうございます。
  - ・70 歳以上の先輩数名に、ヒアリング(田崎 OB 会長に依頼)
    - 「こうした取り組みについてのご意見、文章のお願いをしたときにどう書いていただくか」
      - 企画概要については、大賛成をいただく
      - 書くテーマを絞ったほうがいいのか(競技のこと、合宿所のこと など)
      - 書いていただく方は、スタートは、小泉体育賞などをもらった方などにお問い合わせ、リレーしてもらうなど考えたらどうか

\* 貴重なアドバイス、ありがとうございました。

## ii) 大先輩方から、「記憶」の収集

### ●対象を誰にお願いをするのかについて、議論

- ・ご年齢、体調の事も考え、特に 80 歳以上の方に優先的にお願いをする
  - ・現在、連絡先が分かっている(特に、住所やお電話番号)方にターゲットを絞る
  - ・その年代で、競技で秀でた方をお願いをする
- 昭和20年～48年卒業で、日本学生対校選手権(優勝～6位)、日本選手権(全員)の入賞者をピックアップ(25名の方がいらっしまった)

### ●お願いをするテーマについて、議論

- ・競技についての思い出(海外での試合の事、日本選手権や日本記録を出したことなど)
  - ・合宿所の思い出
- まずは、この2点で、書いていただく

### ●3名の大先輩にご依頼

- ・高山 恕様 (S35年) ご自身の競技に対する考え方などの文章をお書きいただく  
\* 高山大先輩から、ご紹介をいただき、2名の大先輩にアプローチ
- ・高谷美誠様 (S32年) 当時の競走部の方々、大橋敏宏大先輩(S29年)のこと、など
- ・小澤友二様 (S32年) お体を悪くされており我々プロジェクトメンバーがお話を伺った2週間後にお亡くなりになりました。小澤先輩のご冥福をお祈り申し上げますとともに、小澤先輩が残された言葉を、しっかりと次につなげていくべく、原稿にしていきたいと存じます。

\* 現在、この3名の方のお話しの文書化が完了しました。

\* 3名の大先輩方いずれも、塾競走部に対する、温かい思いと、今も見守っていただいていることを感じるとともに、競走部時代の事を大切にされてここまでいらしたことを感じ、襟を正す思いです。

### ■2022年は、以下の2点を進めていきます

- ①3名の方の原稿をもとに、今年も、こうした原稿を集めていく流れの仕組み化
- ②3名の大先輩の原稿をもとに、OBOGの皆様へ、原稿をどのように届けるかのトライアル(年齢の高い大先輩の事を考え、Webだけでない方法を考える)

## 2) 2022年のもう一つの課題 ②「モノの収集についてルール化」について

「記憶を記録にプロジェクト」活動を開始して、数名の大先輩から「思い出の品」についてのご連絡をいただきました。また、先般なくなられた小澤大先輩のご息様からもご連絡いただき、たくさん出てきた「思い出の品」についてのご相談をいただきました。

この件については、2022年中にOB会としての方針を決め、改めてご報告をさせていただきます。大変恐れ入りますが、それまでお手元で保管いただきますよう、お願い申し上げます。

2022年も「記憶を記録にプロジェクト」メンバー一同、次に繋げていくために、進めてまいります。どうぞ、皆様の温かいご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。

以上